

## 自分たちの公園を自分たちでかんがえよう — こどもワークショップ

「ヤゴがメダカを食べるところが見たい」「ひみつ基地をつくる林がほしい」こんなことを話しながら、子供たちが第二小学校(仮称)横の緑地公園のイメージを考えました。これは2月13日10番街集会所でエコパークを作る会が開いた子供ワークショップでのこと。集まってくれたのは打瀬小学校3年生を中心とする約30人。子供たちは3つのグループに分かれ、それぞれ自分の欲しい公園を大きな紙いっぱいにクレヨンで



描いてゆきました。今回の催しには幕張ベイタウンの街作りに関心を持つ千葉大学大学院の学生達も参加、子供たちのお兄さんお姉さん役を務めてくれました。子供たちの描いた公園は、たんぼ公園、ひみつ基地公園、木登り公園など様々ですが、エコパークを作る会ではこれからもこんな催しをくり返しながら、公園づくりを楽しみたいと思っています。

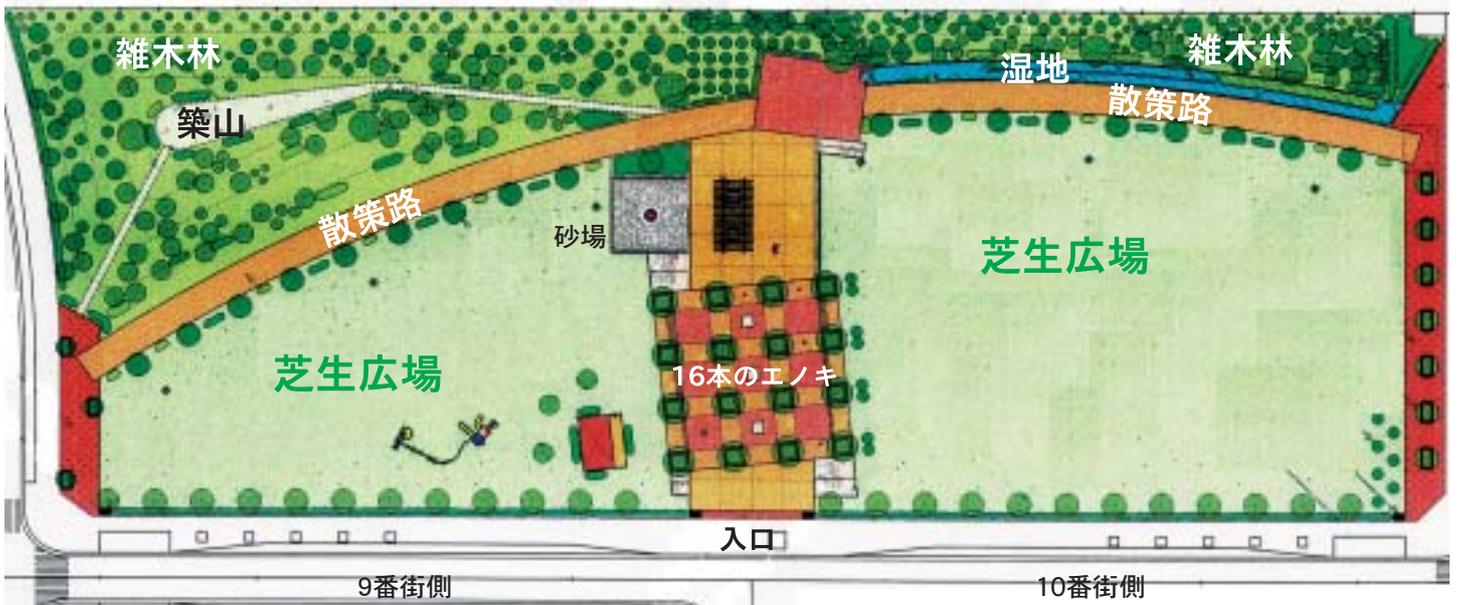
公園のスペースの問題や環境などの制約があり、子供たちのイメージをそのまま公園にはできませんが、

最大の強みは小学校横に出来るということと、行政側の協力があること。街と学校と行政が子供たちの公園づくりを実現させる。ベイタウンらしい取り組みです。

【松】



## こちら9月オープン、アクアダクトパーク



去る2月15日、企業庁より9、10番街横のアクアダクトパーク(正式名称は打瀬一丁目公園)の計画図が発表されました。この公園の特徴は図の上に広がる雑木林と図の右手に見える湿地(幅2m、深さ20cm)、さながらミニ森林公園といった造りです。雑木林には約400本の木(クスノキ、ヤマモモ、タブノキなど)が植えられ、高さ3mの築山がつけられます。公園入り口には高さ4mにも

なるエノキが16本植えられこの公園のシンボルとなります。

この公園敷地には昨年まで自然な湿地があり、ヨシが繁る原っぱにはカモやオオヨシキリ、キジまで鳴いていました。今は砂漠と化しているこの公園用地に再び鳥が帰ってくることを祈ります。

【松】

**打** 瀬中学校では昨年12月と今年2月の2回AS(After School)講座が行われました。地域住民が講師となり学校で児童、生徒を前に講座を行うという授業は小学校では多く例があり、打瀬小学校でも同様の授業が「地域交流特別クラブ」の名前で開校時より継続して行われています。しかし、中学校でこのような地域協力型の講座が継続して行われることは全国的にも非常に珍しく、教育関係者の間でも注目されています。

講座の中学校教育に果たす役割という視点も重要ですが、今年度の2回のAS講座では街作りという面でも多くの成果を残すことが出来ました。

なかでも最大の成果は中学校と地域住民との間で、地域教育について話し合うことが可能になったことです。今回、第2回講座の打ち合わせでは、この講座を行う意義や目的などについて、講師となる住民と学校長を交えた中学校側との間で相当熱の入った話し合いが行われました。議論はAS講座そのものから地域での子育てと学校との関係、あるいは2002年に行われる教育改革に向けての、地域と学校とのかわり方など多岐にわたるものでした。中学生の保護者ではない

**中学校 AS 講座街作りから見た成果**

地域住民が、自分たちの地域教育について学校と話し合う、これは理想としては素晴らしいことですが現実には学校と住民との間の距離は大きく、一朝一夕に実現できるものではありません。開放的といわれる打瀬中学校でも前任の渡辺校長と現在の石原校長の努力の積み重ねの上にやっと実現できたことです。

今回講師を務めた方々は、偶然ですが中学生のお子さんをお持ちではありませんでした。しかし地域での教育ということを考えれば、保護者ではなく地域人として、街作りの視点から教育を考えることが必要となります。学校の地域開放やその試みの多くは今日の学校教育の抱える問題解決の手段を地域との交流の中で求めることに主眼が置かれ、街作りや地域での生涯教育のなかでどのような役割を果たすのかという点から論じられることは余りなかったように思われます。この意味で今回2回のAS講座を契機として始まった学校と地域との対話は、ベイタウンの街作りという点からも大きな一歩であったと思います。

打瀬中学校でのAS講座は来年度は更に規模を大きくして続けられる予定です。【松】

**パティオス 20 番街 メッセ大通り海側の開発開始**

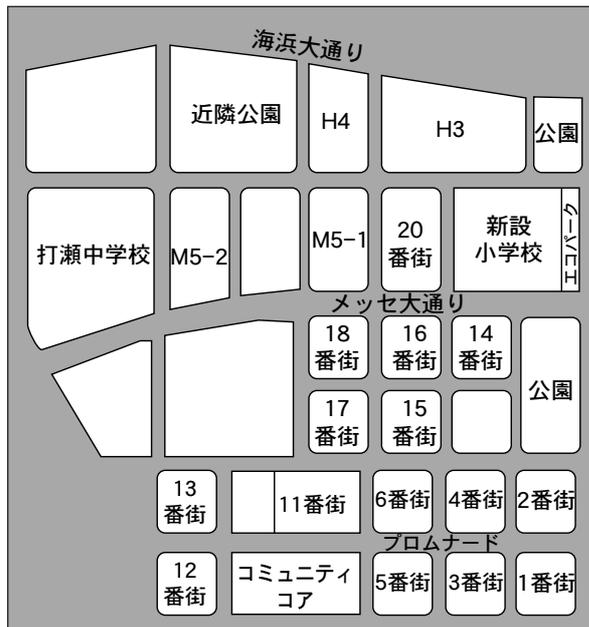
いよいよ今年2月下旬より、メッセ大通りを挟んで海側の住宅建設が始まります。最初に着工されるのはパティオス 20 番街（新都心住宅地区 M4 街区）。現在建設中の打瀬第二小学校（仮称）に隣接して都市基盤整備公団が建設します。20 番街は通常の中層街区よりも敷地面積が大きく、戸数も 189 戸と、現在の街区では 11 番街とほぼ同じ程度の大きさで、全戸が賃貸住宅（一部店舗を含む）となります。入居開始は平成 14 年 3 月に第一期を予定しています（第二期は同年 7、8 月を予定）。

メッセ大通り海側には、この 20 番街につづいて平成 15 年に M5-1 街区、平成 16 年には H3、H4 街区の入居が予定されており、平成 13 年春の第二小学校（仮称）開校につづいて毎年街区の入居がつづくこととなります。

メッセ大通りの海側に建つ建物は現在は打瀬中学校だけで、ベイタウンもまだまだ発展途上という印象ですが、海側の開発はベイタウンを大きく変貌させます。

注：M は中層、H は高層、SH は超高層。

【松】



**交通委員会 迷惑駐車撲滅キャンペーンを 3 月 11 日開**

最近ベイタウンの駐車状況がいちだんと悪化しています。昨年末に交通委員会でキャンペーンを行い、一時は交通委員会が調べたデータ上でも確実に改善されていたのですが、最近になって再び両側駐車が目立つようになりまし。青空駐車を続ける「確信犯」は増えているわけではなく、むしろコア予定地駐車場が使えるようになったことで減っている

わけですから、今の状況は「最近はうるさくないから、一台くらいならいいや」という便乗派の増加、つまりは街のマジョリティのモラルの低下がこの状況を生み出していると思われ。交通委員会も買い物ついでの短時間駐車までいけないと言っているわけではありません。ちょっとだけと考えるその「ちょっと」の時間を少

しだけ短くしていただきたいのです。「駐車禁止のない街」はベイタウンの金看板のひとつです。しかしこの看板を守り続けるには相当な力が必要です。交通委員会では3月11日より早朝の迷惑駐車撲滅キャンペーンを行います。また、企業庁でもコア予定地駐車場の契約可能台数を増やしています。皆様のご協力をお願いします。【松】

## うわさの真相 「打瀬小はデイケアセンターに転用できる？」

「打瀬小学校は、何十年後かの転用を視野に入れて設計した。数十年後に生徒数が減ったとき、転用できない壊されてしまう。子供が減るといことは高齢者が増えるということ。そこで、デイケアセンター的なものに転用できるように考えた」――打瀬小の設計に携わった小嶋一浩さんは、ある雑誌のインタビューで「建物の長寿命化」への対応を問われて、こんなふうに答えています。知らなかった、打瀬小にそんなもうひとつの顔があったとは！ 真相を確かめようと、さっそく東京・恵比寿の事務所を訪ねてみました。

「転用を意識していたのは地域施設としてです。デイケアセンターのような高齢者向けの施設というのは一つの結果。子供が少なくなるっていうことは、人口が減らないとすれば高齢者が増えるということなので、施設の利用者はおのずと高齢者中心になるでしょうから。療養施設のような、ほかの用途だっていいでしょう。もちろん設計のときは、小学校としての役割をきちんと果たすように考えてますよ」

どうやら、デイケアセンターのような、利用者を高齢者に限った施設をとくに強く

意識していたというわけではなく、もっと幅広く、地域施設としてどう使えるか、をにらんで設計にあたった、というのが真相。それでも、採光・通風が確保されていたり、居心地のいい空間が設けられていたり、高齢者向けの施設に求められる点との共通点は多いといいます。必ずしも高齢者向けの施設を念頭に置いていたわけではなくても、転用が現実のものになれば対応することはできそうです。

転用のことまで意識するかどうかはさておき、「地域施設」としてどうつくるか、という考え方は設計の基本となるものでした。この考え方はベイトウン全体のマスタープランの中から出てきたものです。小嶋さんはこのプラン作りにも参画しています。

「郊外型の住宅団地で街のアクティビティを、というのが街全体の理念です。それで、駅のほかにも“特異点”となる施設を設けて、そこに向かう人の流れを作り出すことを考えました。平日の昼間でも流れを作り出せるのは、学校や高齢者向けの施設などでしょう。地域施設としての学校づくりを目指したのは、こうした都市計画の観点からです」

確かに、郊外の住宅団地は日中さびしいものです。人の気配を感じることはほとんどないと言っていいでしょう。ベイトウンはそうした旧来型の団地づくりの反省の上に立っています。小学校の位置付けも、これまでとはおのずと変わってくるわけです。

「マスタープランを検討していた、まだ夢物語をいろいろ話しているころ、教室をマンションの1階に置いて、グラウンドは公園を使って、プールはコミュニティコアに、なんてことも考えたことがありました」

おもしろい。高齢者向けの施設をいざつくろうというときにも参考になりそうな考え方です。

【茂木】



小嶋一浩さん（右）と、同じく設計に携わった赤松佳珠子さん。

## ベイトウン WHO'S WHO

WHO'S WHO 第2回目は「ホスピスの会・東京支部」の須田美智子さん(8番街)をお訪ねしました。お家の玄関のたたきは、部屋より高く傾斜していました。「将来車椅子を使うかもしれない、また、車椅子のお友達も来られる様に、段がないのです。」と、優しく微笑まれた須田さんにボランティアについてお聞きしてきました。

「主人の転勤でロスアンゼルスに住んだ時に、ボランティア活動が日常生活の中に組み込まれていたため、私も何か手伝いたいと思って参加するようになりました。活動内容は、日本で言う特別養護老人ホームでのお手伝いやホームレスの食事の提供などです。食事の提供については、大きな行事の時に、市の中心のミッションでディナーを作ってハリウッドの俳優と一緒に配ります。また、普通



イギリス、セントクリストファーホスピスにて

の日には、スーパーの見切り品をボランティアが一人分ずつつけて配給するのです。この様に米国では、自分たちの利益やあいた時間を地域に還元するのが普通のことなのです。」

「そんな風に米国で暮っていた時に、三番目の妹の夫が肝臓ガンになり、急ぎ帰国。三姉妹と医者・看護婦さんで最期を看取りましたが、その時の看護のありがたさが“ホスピスケア-痛みの緩和、身の回りの世話、精神的に支える事を、チームでするもの”だったのです。それは、限られた時間を有意義に生きぬかせるものでもありました。その後、転勤で宮崎に赴任し『宮崎にホスピス』の運動を知った時はすぐに入会しました。こちらに住んでいる今も、宮崎ホスピスの会の会報に英国ホスピスでの研修報告をしたり、二か月に一度宮崎で講演しています。」と、開いたアルバムには、明るい陽光、美しい庭の中に建つホスピスと、にこやかに、充実した顔で微笑む患者さんたちの写真がいっぱいでした。

「ここベイトウンは、未来を先取りしたような街ですが、高齢化に対応していません。これから介護保険が始まっても、プランだけに終わって利用できない可能性もあります。この街に、シニアライフをいきいき過ごせるデイケア、ショートステイを含めた福祉マンションが、ひとつあればと思います。そこは、診療所や食堂などの施設があり、介護、食事、掃除などの仕事は元気な入居者が受け持つという、住まい・福祉・仕事が一体化した住居です。年若いこの街で、今『自分の事ではない』と言わず考えてほしいです。最後までいきいきと生きぬける“未来への、本当の人生のモデルルーム”をつくり、次の世代に引き継いでいきたいですから。」と話された須田さんは、去年定年退職されたご主人のお誕生日に「これからの生活は、人として生まれて何をしてきたか、何を後に伝えていけるか考えて歩いていく人生にしませんか。」と書いたカードを贈ったそうです。最近では、ご主人も一緒にホスピスのボランティア(ガーデニングを担当)に行ってらっしゃいます。【浜田】

## ベイタウンニュースサポーター in 公園東の街

毎月のベイタウンニュースの配布は、ニュース・サポーターのご協力によって支えられています。小さなお子さんの手を引いて参加してくれるお母さん、お子さんに折り込みを手伝わせているお父さん、月に1度のおしゃべりを楽しみに来てくださる方…、夏は汗をかきながら冬はかじかんだ手をさすりながらポストイングしていただいています。全くのボランティアでこの6月には丸3年を迎えようとしています。

いっぽう作業をしながら人と人の輪が広がり、自然に街の話題が交される場ともなっています。最近では、公園東の街、西の街、セントラルパークからも心強いサポーターが参加してくださるようになりました。

そこで、新しい試みとして、普段10番街の集会室で行われている配布作業を、公園東の街のまだできたばかりの集会室を借りて行いました。フローリングの広々とした集会室は、ガラス扉を開け放つとウッドデッキから中庭へとつながるオシャレなつくり。初めて東の街に足を踏み入れる人も多く、いつもと違う雰囲気の中で新鮮な気持ちで作業が行われました。今後も新しい街区での配布作業を行ったり、交流イベントを設けるなどサポーターの方たちが楽しんで参加できるような企画を展開していきたいと考えています。



## 投書箱から

先日ポストに、騒音についての注意のビラが入っていました。この街に住んで3年が過ぎようとしていますが、真夜中の暴走族以外一度もひどい騒音にあったことがなかったので、少し驚きました。時々聞こえるピアノの音に「いつかパティオスの住人から素晴らしい音楽家が生まれるかも」。パティオから聞こえる子どもたちの声は、心とむ21世紀の希望に聞こえます。時折聞こえる動物の鳴き声が全くなかったら、なんと不自然な街になるでしょう。家の中に何かの音が全くない家庭があるのでしょうか？

誰しも、自分で出す騒音には寛大で気がつきにくいものです。だからといって騒音を認めるのではありません。ただ最近、他人に対しても厳しいチェックをしているように思えるのです。子どもをのびのびと育てられる環境が、このベイタウンの魅力なのではないでしょうか。汚いものや嫌な事は見たくありません。うるさい音は聞きたくありません。だからといって規則や制約や看板やチェーンをつけても、物事の解決にはなりません。自分で自分のクビを絞めるような事だと思のです。

この街の美しさが好きです。この街の自由な感じが好きです。子どもがいないのに、学校の様子を知らせてくれる「お知らせ」を毎回読んでいます。

難しい事であってもほんの少し音に注意したり、布団干しを外から見えないようにしたり、思いやりの気持ちで考えたりする事で、お互いがいたわりあえる街にしましょう！

理想と現実とは違っても、それでも折角こんな素敵な街に住んでいるのですから、私は努力します。(16番街 中島)

## ベイタウン掲示板

現在、自治会連合会では、パティオス2番街の空き店舗を利用して、ベイタウン掲示板を設置しております。ここにはベイタウン内の各サークル、個人レッスンの案内の他、生け花、絵画、写真等の作品も展示しております。ぜひご覧になってください。また、ポスターの掲示あるいは作品の展示をご希望の方は、下記までご一報ください。

◆ベイタウン掲示板連絡先：パティオス17番街214号 佐藤、パティオス5番街205号 田村 TEL/FAX 211-0095 (E-mail:tamu@mes.co.jp)

## 編

■最近、海浜幕張駅前の駐輪モラルが著しく低下しています。駐輪スペースに空きがないと、駅前広場に放置したり、人の自転車の手前に2重駐輪したり。駅の障害者用スロープの前まで自転車があふれ、スロープが利用不能となっていることもあります。利用者の皆さんのモラルアップを望みます。

編集：#1-210 板東司 (T&F211-0289/tbando@dp.u-netsurf.ne.jp)

■先月号の事になりますが新春茶話会の取材に行った時に感じました。壮年パワーはさすがに驚き、多才な方々の集いにベイタウンの奥深さを感じると共に 老若男女を問わず楽しい街でありたいものだと思いました。「シニアクラブ設立準備委員会」のご活躍を楽しみにしています。

企画：#3-220 金一剛 (T211-0388/ikkim@xa2.so-net.ne.jp)

■先日仕事でSOHO(Small Office Home Office)を取材しました。小さなスペースでインターネットを使って仕事をするという労働スタイルです。通勤不要、子育てや介護にも時間がとれる(男性も)、昼間地域にいるので防災面でも安心、障害をもった人も高齢者もできる…といふことづくめのこと。アメリカでは3000万人以上のSOHOワーカーがいるそうです。ベイタウンにもきつというのでは…取材してみたい！

タウンスケッチ記者：#3-310 佐藤則子 (T&F211-0090)

## 後

■最近投書も増え、青い投書箱の中を見るのが楽しみです。丁寧に封筒に入れられたもの、ワープロでうたれたもの、新聞の切り抜きをつけてくださったもの…今月もいろいろ入っていたのですが、残念なことに無記名のものが多かったのです。「匿名希望」と書いていただければお名前は載せませんので、どうか記名して投稿ください。せっかくのご意見、たくさんのかたに読んで頂きたいものですから。なお、青い投書箱はリンコス・ファミリーマート・デイリーヤマザキ・ヤンマーにあります。 記者：#公園東 浜田貴代子 (atmark@pop01.odn.ne.jp)

■「ゆくゆくは結婚式にも貸与える小学校講堂」— 80年近く前の新聞報道です。東京では震災復興のとき、小学校を開放して地域の核にしようとの発想がありました。「体育館を社会教化の講演や区、町の集会に、応接室、図書室をクラブの集いに、講堂を結婚式に、校庭を小公園に」といった具合です。こんなにぎやかな学校だったら、京都の「てるくはのる」も事件を起こせなかったのでは。

記者：#7-301 茂木俊輔 (T&F211-1066/m38032@pp.ij4u.or.jp)

■シリーズ番街紹介の記事編集の過程で、板東さん所蔵の建設中の1番街の写真を見る機会を得ました。残念ながらスペースの関係でこの写真はボツになりましたが、現在のベイタウンからは想像できない姿に驚き、感激しました。今は見慣れているベイタウンの風景も建物一つ建つごとに様変わりします。今のベイタウンの写真を撮っておいて10年後くらいにレアもので売り出せば、ベイタウンニュースの発行の足しになるかな。そんなことを考えました。

技術：#10-612 松村守康 (T&F211-6853/m-matz@mxq.mesh.ne.jp)

## 車上荒らしにご注意！

各番街の掲示板に掲示がありました、ベイタウン内で車上荒らしが頻発しています。特に、2月10日から15日にかけては、数十件の盗難事件が発生したとのことです。車自体が盗まれた例もありますが、多くは車内の金目のものが狙われています。車内の目につく所には、金目のものを放置しないようご注意ください。また、不審者(車)をみかけたら110番通報するようお願いいたします。「あなたの車も狙われています。」

ベイタウンまつり 2000

5月13日開催決定

助人募集

### 実行委員会メンバー募集

昨年までの企画（街区対抗綱引き大会、バーベキュー広場、フリーマーケット、等）をパワーアップしたい人、ミレニアムイベント案、お祭り大好き人間を大募集中!! 詳細は3月初めに各街区掲示板に掲示されるポスターをご覧ください。

自治会連合会ベイタウンまつり実行委員会



1番街のシンボルの羊と牛。

1番街～6番街の各コーナーに設置されている12星座のうちの牡羊座と牡牛座です（牛は一時行方不明になっていましたが、今は健在です：ベイタウンニュース 9・



## シリーズ番街紹介 第1回

### 「パティオス1番街」

先月号に引き続き、連載企画第2弾です。

今度は、『番街紹介』と称して、ベイタウンの各番街の特色を、できるだけビジュアル（写真中心）に紹介していきたいと思います。記念すべき第1回は、やはりパティオス1番街から行きましょう。実は、私の住んでいる所なので、手っ取り早いというのも第1回に選んだ理由です。後に続く番街の方々も、自分たちの番街の特色を示す写真をたくさん集めておいて下さい!

1番街の特色は、なんと言っても「1番乗りが好き!」ということでしょうか。ベイタウンに住み始めたのも1番乗り（平成7年3月。2～6番街と同時です）、自治会を作ったのも1番乗り（平成9年2月）、そして夏祭りも毎年1番乗り（七夕の前後）です。別にあたりし物好き、という訳ではないのですが、やはり“1”番街であることを、どこかで意識しているのかも知れません。【板東】



10号参照)。

夏の風物詩、1番街の七夕パーティー。

パティオには外からの出入りが自由なので、近所中から子供たちが集まってきて、毎年大変な賑わいとなります。

### シーリアお台場 ミーティング・ルーム

公団の超高層の中間階にあるミニ集会所です。通常の集会所は時間単位の申し込みですが、ここでは月単位の申し込みが可能で、お住まいの方が共同で喫茶室+バー "O'day Bar" (オダイ パール) を開設しています。



都市公団

www.udc.go.jp

賃貸住宅のお問い合わせは

総合募集センター津田沼案内所 TEL:047-478-3711

公団住宅の駐車場のお問い合わせは

日本総合住生活(株)千葉支店 TEL:047-277-7371

## 打瀬小学校より

### きらりフェスタ開催

個々の日頃の趣味・特技を披露し  
よい面を認め合う

去る2月5日(土)、本校アリーナ及び音楽教室を会場に、「きらりフェスタ'99」を開催しました。

保護者の方も多数参観され楽しめました。

本年も希望者が登録する方法で、プログラムに沿って次々に発表が進みました。

音楽室では、バイオリン・ピアノの独奏の他、合奏等23組の子供たちの発表が、アリーナでは、和太鼓等の演奏の他、「なわとび」「パントマイム」「新体操」「一輪車」「剣道」「サッカー」のような運動を伴う発表が行われました。

来年度は、一層工夫を凝らし、多くの子供たちが自分の得意な発表が様々な場でできるようにしていきたいと考えています。

来年度もご案内を差し上げますので、是非ご来校ください。



和太鼓の演奏風景

### 第3回地域交流特別クラブ盛会

子供たちが待ち兼ねていた本年度最後の地域交流特別クラブが盛会の内に幕を閉じました。

このクラブは、様々な特技や知識をお持ちの方の力をお借りし、日常の学校生活では味わえない体験をさせていただくものです。



切り絵の指導

バレーボールやサッカー、ゲートボール等スポーツ的な分野の他、飛行機のパイロット経験の方に、航空機の歴史に関する話を伺ったり、外国に長期間住んでいらした方にその国の文字を教えていただいたりする講座もあり、大人も興味をそそられる授業です。

この講座の成否は、ひとえに地域の方々のご援助によるものです。

お気持ちのあります方は、学校に連絡くださりボランティアとして登録して下さるとありがたいです。毎年度始めにご都合を伺い、1年更新とさせていただきます。

連絡は、打瀬小 043(211)0321 の教頭 林、または今井までお願いいたします。

# 打瀬中学校より



## 「お客にはわからない苦勞をしている…」

### 職場訪問

打瀬中の一年生が2月3日(木)に近隣の職場を訪問し、普段は見ることのできない仕事場で、一日社員として働かせていただきました。2ヶ月前から訪問先と連絡を取り合って準備を進め、この日、28箇所の職場を訪問しました。勤勞の尊さを学ぶ貴重な体験をして来た生徒は、出発前の不安な表情は消え、ちよっぴり大人になった気分を味わって大いに満足した様子でした。

### 生徒の感想から

#### 新星堂スポーツ

僕は何かを売る仕事は、ただ商品を並べて、お客を待つだけかと思っていました。けれども、商品の整理や値札付け、目立たせるようにポスカなどで工夫していたり、お客にはわからない苦勞をしているんだと思いました。さらに驚くことに、商品は1年前に注文することでした。何が売れるかわからないので、長年のカンを使うと言っていました。こんなに大変なことをして辞めたくなくなったことはないのかと聞くと、「スポーツが好きだから辞めたくない」と言ってくれました。僕はその言葉がまだ忘れられません。どんなに大変でも、好きなもののそばにいられば、辛くならないとうことを忘れないで将来に役立てようと思いました。

#### 〈サンエトワール〉

私は料理をするのがとても好きです。だからサンエトワールというパン屋へ行きました。パンに卵を塗ったり、ハサミでパイに模様をつけたり、色々なことをさせてもらいました。これを毎日やっているパン屋さんは、とても楽しんでやっていました。私は何かの職業に就くなら、こんな風に楽しんでやりたいと、実感することができました。



この行事を担当した辰野先生は、職場訪問を通して、「生徒は、職業・勤勞について関心が高まり、働くことの楽しさや厳しさを知ることができたと思う。人は生計を維持するためばかりではなく、職業を通して社会の一員としての役割を果たし、自己の能力・適正を発揮しているといったことも考えることができたのではないか。」と話していました。

産 業	職 場	産 業	職 場
農 業	千葉酪農協同組合	製 造 業	・ S O N Y 木更津株式会社 ・ パール楽器製造株式会社
卸売・小売業 飲食店	・ 京葉スポーツ ・ 新星堂スポーツ ・ フェリア (イズミヤ) ・ 今村商事 ・ ディリーヤマザキ・チャリンコ ・ 上州屋キャンベル稲毛店 ・ サンエトワール幕張店 ・ ユニディ稲毛海岸店 (ペット館)	サ ー ビ ス 業	・ 美浜動物病院・本郷眼科 ・ ホテルグリーンタワー ・ 千葉テレビ放送株式会社 ・ Bay FM studio marive ・ 千葉日報社・柏レイソル ・ 千葉マリスタジアム ・ 美容室フレンズ
公 務	・ 陸上自衛隊下志津駐屯地・海上自衛隊下総教育航空群・磯辺保育所・美浜区役所 ・ 美浜消防署 (打瀬出張所) ・ 千葉市動物公園・NASDA		

## 理科、社会、美術の3教科 が一つになった校外学習

2月4日(金)は、2年生が朝から一日かけて千葉市内のいくつかの施設を訪問し、調査して廻るといふ校外学習を実施しました。3年前より、理科・社会科・美術科の3教科が協力し、学校・学年行事と異なり、準備・運営・まとめまでの一切を合科学習として行っているところに特色があります。

見学、訪問先は次のとおりです。  
千葉地方裁判所、千葉市動物公園、TEPCO 地球館、千葉テレビ放送、NHK 千葉放送局、情報と科学のフロ

ア、千葉県郷土博物館、ポートタワー、そごう美術館、千葉市美術館、シャープハイテクノロジー、富士通ドームシアター、セイコーインスツルメンツ、中央博物館、中央図書館、県立美術館、千葉神社

生徒の感想からは、(1) 校外での学習、実際に施設を訪問・見学することで貴重な体験ができた。(2) これまで知らなかった自分たちの街(千葉市)の事がよくわかった。(3) グループで計画立案・実施することで、大変さや協力することの大切さを感じた。等の感想が多く得られました。



千葉城の前で